

道民森づくりネットワークの集い

～ポスターセッションに参加しました～

11月5日(土)に札幌・道庁赤れんが庁舎・前庭において「道民森づくりネットワークの集い」が開催されました。このイベントは森林を産業あるいは活動の場として活用する人たちが、枠組みや境界を超えておたがいの活動を理解していく出会いの場として企画されたものです。内容はポスターセッションやパネルディスカッション、テント村での展示や体験教室などで構成されています。知床森林センターは、ポスターセッションに参加し、知床の自然の紹介やセンターの活動報告を行いました。ポスターセッション会場では林野庁や北海道といった行政機関のほか、NPOや市民団体など、森林に関わりの深い35の団体が各々の活動を趣向を凝らしたポスターにしてパネルに貼り出し、参加者同士又は来場者と意見交換や質疑応答を行いました。その中でも、今年7月に世界自然遺産に登録された知床を紹介した当センターの発表は多くの方からの関心を集め、遺産登録区域の陸域95%は国有林で生態系保護地域として保護されているといった説明や、一般の方になかなか知られていない隠れた名所の紹介を通じ、知床の保全措置への理解とセンターの活動がPRを図ることが出来ました。



樹木医会の方々が来訪

～エゾシカ樹皮食害の現状を確認～

10月21日(金)、日本樹木医会の方々計14名が、当センターで行っているエゾシカ食害調査の試験地を視察するため来訪されました。今回の視察は樹木医会の研修活動の一環で、全国の樹木医の方々が北海道の森林の様子を勉強するため、網走管内唯一の樹木医である鈴木順策氏のとりまとめで企画されたものです。遠くは九州・福岡から来た方もおり、樹木医の方々は、エゾシカの生態や食害を受けやすい樹種の説明に耳を傾けるとともに、北海道の森林構成や、試験地での被害状況などを熱心に観察されていました。



ホームページアドレスが変わりました! ～内容もリニューアル～

デザインを一新し知床の最新情報を日記的に伝えるブログも始めました。是非ご覧下さい。

新ホームページアドレス <http://www.shiretoko.go.jp>

緑化第一係員の荒井竜太郎さんが10月17日付けで網走南部森林管理署へ異動になりました。昨年12月1日付けで知床森林センターへ新規採用として着任し、もちまへの真面目さと明るさで森林センターに旋風を巻き起こしてくれました。南部署へ行っても頑張って!

平成17年11月発行 第98号

知床の森から



北海道森林管理局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp> (アドレスが変わりました!)



(写真: ヒグマ)

知床は今

知床連山が先月24日に初冠雪し雪化粧をしました。また知床横断道路が今月7日、冬季通行止めになり来年春5月の連休頃まで長い閉鎖になります。今年は7月に知床が世界自然遺産に登録され知名度が上がったため、例年観光客が減る9月を過ぎても大型バスで多くの旅行者が訪れ賑わいました。9月迄で昨年同期比10%の増加になるそうです。知床半島を折り返す観光船の乗船者も昨年比に比べ15%増と過去最高の記録だそうです。

旅行者は知床の風景だけでなく、エゾカやキタキツネなどの動物たちに会ったり、中には人慣れした新世代のヒグマを見かける人もいたようです。

10月末からオオワシやオジロワシがサハリンから越冬のために知床にやって来ます。飛来した時は国道沿いの樹木で羽を休めている姿が見られます。オオワシは翼を広げると220cm~245cmになる日本最大の猛禽類です。オジロワシは翼を広げると180cm~230cmでオオワシよりも一回り小さい猛禽類です。



エゾリスを見かけました!



川を遡上するカラフトマシ

また秋鮭漁の盛んな道東方面では遡上数が多く豊漁でした。海岸でのサケの一本釣りも盛んで休日など林立する竿が海岸をにぎわしていました。今は漁も終わり高い波の押し寄せる砂浜に、役目を終えた鮭の死骸をカモメが食んでいる姿が見られます。雪が降り知床五湖への道路も閉鎖される冬期間、雪に覆われた知床は原始の静けさに戻ります。

しれとこ産業まつりに参加

—丸太切りや火起こし体験などを行いました—



親子で協力しながら丸太を切りました

初めて鋸をもってお母さんと一緒に切る子供、昔のことを思い出しながら切る人など、ほほえましい光景が見られました。火おこし体験では、順番待ちの出る盛況で子供達は汗をかきながら真剣に挑戦していました。

参加者の皆さんは普段なかなかできない体験を通じて木の感触を楽しんでいただいた様子でした。

9月25日(日)に斜里町みどり工房において第26回しれとこ産業まつりが開催されました。今年、7月に世界自然遺産登録が決まり、いつもと違い賑やかな雰囲気町内外から3万人を超える人々が集まりました。

センターからは、(1)丸太切り体験(2)火おこし体験(3)知床世界自然遺産写真プレゼント(4)種模型で遊ぼうの催しで参加しました。

丸太切り体験では、老若男女の参加があり



火起こしにチャレンジ!

知床世界自然遺産記念式典開催される

10月30日(日)、斜里町のゆめホール知床にて、知床世界自然遺産登録記念式典が北海道、斜里町、羅臼町主催で開催されました。式典には来賓として小池環境大臣、武部自民党幹事長等が出席されたほか、行政や議会、地元関係者など約600人が参加し、会場は満員の賑わいでした。式典冒頭には、式次第に無い演出としてオカリナ奏者宗次郎さんが登場し、サプライズゲストによる幻想的な演奏に来場者は聴き惚れていました。式典内では、知床を紹介したビデオ上映や遺産登録までの経緯報告、世界自然遺産地域科学委員会の石城謙吉委員長による基調講演等が行われたほか、高橋北海道知事、牛来斜里町長、脇羅臼町長により「道民一丸となって世界に誇る知床の適正な利用と保全に努める」旨をうたった「しれとこ宣言」が読み上げられました。遺産登録から3ヶ月以上経ち、観光客の増加という影響を感じる一方、遺産を保全するための様々な課題が残されている現在、式典参加者にとっては、遺産を次の世代に引き継ぐための取組の重要性を改めて認識する機会となりました。



【知床宣言を読み上げる高橋知事と斜里、羅臼両町長(写真:斜里町提供)】

第75回森林レクリエーションin知床

オシンコシンから弁財崎へ古の道を歩こう

～樹名当てクイズを行いました～

10月13日(木)に第75回森林レクリエーションin知床「オシンコシンから弁財崎へ古の道を歩こう」を実施しました。今回のイベントは、オシンコシン高台からウトロ高台までの、今は使われていない旧国道を散策しました。参加者は抽選で選ばれた計25名です。イベント当日は秋晴れで、気温もちょうど良く心地良い天候でした。散策路沿いにはミズナラやトドマツ、エゾマツ、イチイ、カツラなど知床を代表する様々な木の種類が見られ、木の葉や樹皮などの特徴を解説をしながら、樹木当てクイズを行いました。木の高さや太さを当てるクイズも行い普段目測で測る機会がない事もあり難儀しているようでした。



ニレの巨木に抱きつきました

コース沿でヒグマの爪痕を見かけたり、大きなクマゲラの食痕の前で実物大のクマゲラのイラストをまじえて解説しその大きさを実感してもらいました。また、マツカサは種の入れもので雨が降り濡れると閉じて晴れて乾燥すると開いて種を飛散するしくみがあること、樹皮を食べられた



た木を目の前にエゾシカの樹皮食害により木が弱ったり枯れてしまう被害が増えていることを話し参加者の皆さんは被害の深刻さに頷いていました。コース途中には、実りの秋ならではのホオノキやイチイ、ハリギリの実が見られ、ヤマブドウが実りの時期でした。

今回は樹名当てクイズをしましたが、結果はほとんどの方が全問正解でした。自然観察や樹名当てクイズなどを通じ一般の方々にもっと樹木に興味をもって頂きたいと思います。

観光マナー向上の啓発活動をしました

—オシンコシンの滝でチラシと絵はがきセットを配布—

10月20日(木)オシンコシンの滝にて知床森林センター職員3名により絵はがきをセットした啓発チラシを観光客に配り、ゴミの持ち帰りや野生動物への餌やり禁止といったマナー向上の呼びかけを行いました。当日は天候にも恵まれ秋晴れの中、観光バスから次々と降りてくる観光客にチラシを配り300部を用意していましたが、約30分ほどでなくなってしまいました。知床は世界自然遺産登録後、観光客が増えていることもあり、これからも継続しマナーの向上を呼びかける必要があると感じました。

チラシ配布後は職員による周辺の清掃活動を行いました。日頃は売店の方が1日3回ゴミ拾いをしているので目立つところにはゴミがありませんでしたが、目立たない所にはタバコの吸い殻や飴やガムなどの包み紙、壊れた傘などが捨てられていました。知床観光に来る際には最低限のマナーは守りましょう!

